大阪市立大学医学部附属病院

# 市大病院情報誌

# そよ風

2014年1月
第20号

Smile! / Service! / Science! 笑顔の大学病院を目指しています

## Contents


▷ 造血幹細胞移植推進拠点病院に選定されました。
▷ 医療の改善活動全国大会が開催されました。
▷ 化学療法センターが広く快適になりました
▷ 診療科から
・皮膚科
・神経精神科
・脳神経外科
▷ 専門職紹介
・移植コーディネーター

診療科紹介
泌尿器科

連載記事
医療安全だより


**おかげさまで創刊２０号**

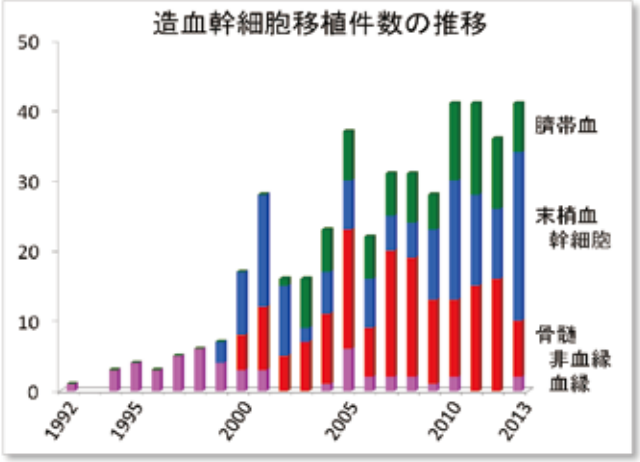
### リニューアルしました

20号の記念と新年ということで、そよ風をリニューアルしました。これからもよろしくお願いします。

## News 造血幹細胞移植推進拠点病院に選定されました

患者さんの病状に応じて適切な移植を実施できるように、厚生労働省「造血幹細胞移植医療体制整備事業」の対象として、骨髄移植、末梢血幹細胞移植、臍帯血移植を相当数実施している病院の中から、東京都立駒込病院、名古屋第一赤十字病院、大阪市立大学医学部附属病院が「造血幹細胞移植推進拠点病院」として選定されました。

当院は現在までに440例の同種造血幹細胞移植を行っており、今後も多くの患者さんの命を救えるように、移植成績の向上にさらに努めて参ります。




## 新体制がスタート

今年度4月より皮膚科医局において新体制が発足しました。これまで過去の諸先生方が築き上げてきた歴史に立脚しながらも新しい取り組みを開始し、さらに患者さまの御期待に応えることができる医局を目指しています。

## 髪の毛の悩み ご相談ください

髪の毛は頭部の保護や保温を行うだけではなく感覚器としても重要な機能を担っています。さらに外見を個性的に見せたり、他者に様々な印象を与えたりといった社会的な側面でも髪の毛は貢献しており、毛髪疾患が患者さんの精神面に与える影響は計り知れません。特に円形脱毛症はその発症機序、機構がよく分かっておらず、難治な場合も多く、今後の病態研究、新規治療法開発が切に待たれる脱毛症の一つです。

当科では、円形脱毛症に対して、ステロイドパルス療法、免疫療法、紫外線療法、赤外線療法など様々な治療法を行っており、少しでも患者さんの症状を改善し、精神的負担を軽減することを心がけて診療を行っております。また円形脱毛症以外の様々なタイプの毛髪疾患に対する診断、治療も積極的に行っております。

開催報告

# 第15回フォーラム「医療の改善活動」全国大会 in 大阪

● DATA

日時：　2013年11月9日(土)～10日(日)
会場：　大阪市立大学医学部　学舎　4階
大会長：　石河　修（大阪市立大学医学部附属病院長）

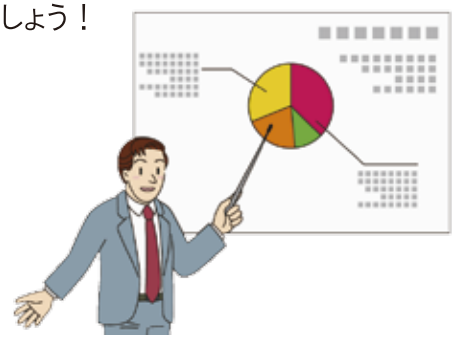
第15回フォーラム「医療の改善活動」全国大会in大阪を11/9(土)～10(日)の2日間、本学医学部学舎において開催しました。

大学病院での開催が初めてとなる今回、全国の医療機関から看護師・医療技術職員など延べ約1,500名の参加があり、過去最大の139演題の改善事例発表が行われました。

また、1日目のプログラム終了後には交流会が行われ、本学職員による手作りたこ焼きやゲームなど大阪らしい「おもてなし」の心を表現することができ、多くの方に喜んでいただきました。

本学からは3チームが優秀賞を受賞することができました。この大会を良い機会として今年度予定されている院内のQC大会も盛り上げて行きましょう！

講演者による発表の様子



大会終了後に関係者で記念撮影をしました

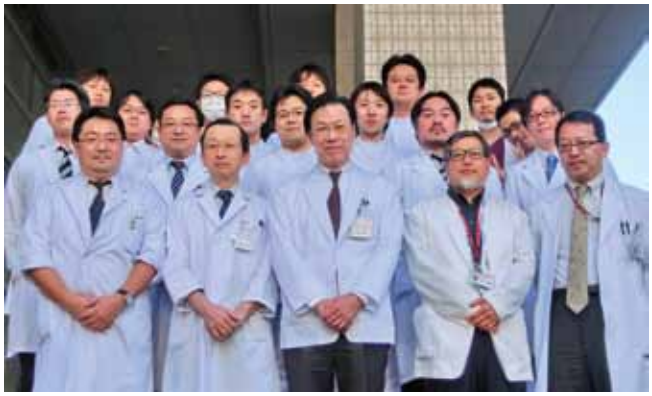
シリーズ 診療科紹介

# 泌尿器科

泌尿器科では、前立腺がん、排尿障害等の一般泌尿器疾患と腎不全疾患に対して、常に最新の設備で最先端の治療を行っており、年間に約530件もの手術を行っております。

前立腺がんの治療においては、従来の腹腔鏡手術、ミニマム創手術に加え、ダヴィンチを使用したロボット手術を導入予定です。ロボット手術は繊細な鉗子、アームの動きと、3Dでの立体画像が特徴で、手術成績の向上が期待されています。また手術以外の非侵襲的治療として前立腺密封小線源治療（ブラキセラピー）を行っております。

腎臓癌に対しては、術後の腎機能を温存できる腹腔鏡下腎部分切除術を積極的に施行しております。



腎不全治療に関しては、透析患者のバスキュラーアクセスの他、二次性副甲状腺機能亢進症等の腎不全に伴う合併症に対して手術治療を行っています。腎移植に関しても、血液型不適合移植や夫婦間移植、糖尿病患者での移植にも積極的に取り組んでいます。

前立腺肥大症等の排尿障害、膀胱がん、尿路結石症、男性更年期障害（LOH症候群）、性機能障害（ED）についても患者さんの幅広いニーズに答えられるよう、専門外来を中心に診療を行っております。

# ●神経精神科の視点から 認知症の早期発見のために

認知症の初期症状として、もの忘れ、判断力・理解力の低下、見当識障害（時間・場所の感覚がわからない）などの「中核症状」を思い浮かべる方は多くいらっしゃるかと思います。しかし、中にはこれら「中核症状」が目立たずに、抑うつ（テレビを見なくなった、何をするのも億劫になった）、性格の変化（怒りっぽくなった）、不安・焦燥感（落ち着きがない、1人になるのを怖がる）、妄想（財布や通帳を盗られたと言う）、幻覚（いない人や物が見えると言う）などの「周辺症状」で発症する方も少なくありません。

また、うつ病、せん妄などの精神科的な病気や薬の副作用によって認知症のような症状が出ることがあり、早期に的確に鑑別することが重要です。神経精神科ではこれらの診断、治療を外来または必要に応じて入院で行っております。是非お気軽にご相談ください。

# ●脳神経外科 覚醒下で行う脳腫瘍摘出術

脳腫瘍摘出術にあたっては、神経機能を温存しながら病変を最大限に摘出するということが重要です。しかしながら、特に神経膠腫（グリオーマ）と呼ばれる脳腫瘍は、脳の中で正常の脳組織に浸潤しながら増殖し、多くの場合、重要な機能を有する脳組織に近接しております。従って、正常の脳組織を傷つけずに病変だけを切除するということが非常に困難となります。

近年、麻酔技術の進歩に伴い、脳腫瘍の手術を麻酔から覚めた状態で行う覚醒下手術というものが可能となりました。この手術は、開頭後（頭蓋骨の一部を取り除いた後）に全身麻酔を中断し患者さんに眼を覚ましてもらい、術者と患者さんが実際に会話をしながら、また手足を動かしてもらうといった動作をしながら神経機能をモニタリングして腫瘍摘出を行う手術です。この手術法によりこれまで治療が困難とされていた言語機能、運動機能、認知機能など様々な重要な脳機能に関わる脳腫瘍を合併症が少なく比較的安全に摘出できるようになっています。

私たち脳神経外科でも、麻酔科の協力のもと約3年前からこの覚醒下手術を導入しており、脳腫瘍摘出手術に応用しています。脳腫瘍と診断され、覚醒下手術について気になる患者さんは一度脳神経外科外来までご相談ください。

フロア通信

## 化学療法センター（病院1階西側奥）

# フロアの引っ越しに伴い広く快適になりました

リクライニングチェアーは、ご自分で姿勢を調整できます

ベッドにもテレビを完備しています

化学療法センターは「抗がん剤治療を外来で安全・確実・安楽に実施する」ことを目的に、平成18年4月に病院1階薬剤部の隣に開設されました。11床のチェアーで約500件／月の治療を行っていましたが、場所が狭く快適な環境とは言えませんでした。昨年10月に旧リハビリテーション部に移転し広くなりました。新しいセンターではベッドも13床設置し、合計25床になり快適に治療時間を過ごしていただけるようにしています。さらに、各診療科外来で行われていた生物学的製剤の患者さまの点滴治療もお受けしています。今後は環境面だけでなく、待ち時間の短縮や副作用への対応など患者さまの外来治療をさらによりよくサポートしていきたいと思います。

ご存知ですか？
ご相談ください

## 専門職の業務紹介

# 移植コーディネーター（14階西病棟）

平成23年に移植医療の充実のために日本移植学会による認定レシピエント移植コーディネーター制度が開始されました。現在、大阪市立大学泌尿器科腎移植チームには2名の認定レシピエント移植コーディネーターがいます。

腎移植医療は医師、移植コーディネーター、看護師、管理栄養士、薬剤師、MSWなど多職種から構成されるチーム医療が必要です。レシピエント移植コーディネーターは円滑に移植医療を遂行するために医療者、移植希望患者、家族、透析施設との連携、調整などの役割を担っています。他にレシピエント移植コーディネーターは意思決定の支援、外来継続ケア、腎移植に関する教育・情報提供、移植医療の啓発活動にも関わっています。

レシピエント移植コーディネーターは腎移植チームの一員として腎移植医療の発展に貢献できるように頑張っています。

## 医療安全だより　～安全・安心で、みんな笑顔の病院づくり～

### 第13回 大切な血液を安全に効果的に輸血するために　輸血部

輸血治療に使用する血液はみなさんからの献血によって賄われています。その血液を無駄にすることなく、治療効果が最大となるように病院内での仕事を一手に担っている部署が輸血部です。

献血された血液は日本赤十字社（日赤）から赤血球製剤・新鮮凍結血漿・血小板製剤などの血液製剤として供給されています。当院ではそれらの血液製剤を約20種類扱っています。輸血は同じ血液型の製剤を使用しないと重篤な副作用がおこりますので正確に患者さんの血液型検査を行う必要があります。また、献血者はひとりひとり違うので血液型が合っていても必ずしもその患者さんに適合するとは限りません。その患者さんに適合するかどうかを確認する検査を交差適合試験といい的確に検査することが必要とされます。

日赤から購入した製剤は輸血されるまで最適な条件で保管しておく必要があります。保管条件が悪いと輸血効果が得られないばかりか患者さんに害を及ぼす可能性もあります。赤血球製剤は4℃で静置保管、新鮮凍結血漿は－20℃で凍結保管、血小板製剤は20℃で振盪保存しておくなど製剤によって保管条件が異なります。それらを最適な条件で管理しておくことも輸血部の大切な仕事です。

このように輸血前の検査や製剤の保管管理には専門的な知識と技術が必要とされます。そのため、当院では、専門の臨床検査技師が24時間体制でこれらの業務を行っています。

「交差適合試験」選択した血液製剤が患者さんに適合するかどうか検査します

「赤血球製剤用保冷庫」赤血球の機能を保つため輸血するまで4℃で保管します

発行／大阪市立大学医学部附属病院
http://www.hosp.med.osaka-cu.ac.jp/
所在地　〒545-8586 大阪市阿倍野区旭町1丁目5番7号
電　話　(06)6645－2121（代表）
初診受付時間　午前9時～午前10時30分
休　診　日　土・日・祝日、12月29日～1月3日